

第8回東京環状道路有識者委員会について

日時：平成14年6月10日(月) 18:30~20:30

会場：ダイヤモンドホテル「サファイア」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授
(委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授
越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
中条 潮 慶應義塾大学商学部教授
森田 恒幸 国立環境研究所社会環境システム研究領域領域長
東京工業大学大学院教授

主な意見：

ヒアリングについて

- ・東京商工会議所 東京再生委員会 委員
環境委員会 副委員長 田畑 日出男
都市再生の観点から、外環の必要性について、東京商工会議所が検討した資料に基づき発言。
- ・草加市役所 建設部 技監 佐藤 充
供用区間の自治体として、計画から供用までの経緯と地域が行った取り組みについて紹介。

PI外環沿線協議会について

- ・進行についてなど、規約に縛られすぎることなく、柔軟な運営が重要ではないか。
- ・代理出席について、個人による出席と役職による出席とは考え方を分けるべきではないか。
- ・関係者の構成員数が、区市により異なるが、同じ数にすることも考えた方がよいのではないか。
- ・議事録は一般に公開すべきである。
公開することです承されている旨、事務局から説明。
- ・普通の会議では議論しない事項(進行役、事務局等)についても、信頼関係を確認しあう作業として慎重な議論が必要。
- ・今日の段階では、協議会に係る情報が少ないため、コメントはできないが、次回の委員会までには4~5回程度の協議会が開催されていると思うので、それらの内容の報告を受け議論していきたい。

第一次提言とその後の対応について

- ・たたき台以降の対応を示すべき。
- ・今後環境分野の専門家の意見も聞いていく必要がある。
- ・ヒアリングでは、観念論ではなく、具体的な意見を聞けるよう対応してもらいたい。

第9回東京環状道路有識者委員会について

日 時：平成14年8月9日(金) 10:00~12:15

会 場：ダイヤモンドホテル「エメラルド」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授
(委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授
越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
中条 潮 慶應義塾大学商学部教授
森田 恒幸 国立環境研究所社会環境システム研究領域領域長
東京工業大学大学院教授

主な意見：

ヒアリングについて

- ・既供用区間（埼玉県旧浦和市区間）の沿線住民 竹下 勝行
埼玉区間の地元住民と地元自治体、国、事業者からなる4者協議の経緯について報告。特に反対から受け入れへ変わった経緯を説明。
- ・国立環境研究所 プロジェクトリーダー 若松 伸司
環境影響評価には、不確実性が伴う。予測の不確実性を高めるには、予測値と実測値とを踏まえ、常に予測モデルを進化させていくことが必要である。その際、特に既供用区間の実態のデータを活用することが大切。ある道路の環境影響評価を行う際には、その道路が周辺道路にどのような影響を及ぼすか道路網全体での予測評価が必要であると説明。

PIの状況について

PI外環沿線協議会について

- ・協議会の規則など入り口の議論で時間がかかり、運営が円滑でない時や議論がかみ合わない時もあるが、これは致し方がないことで、全体としては協議会の開催と議事進行は、評価できる。
- ・司会の立場の不明確さは信頼を失う要因になる可能性が高いので留意すべき。
- ・慎重さがフラストレーションの要因にもなっており、難しいところ。
- ・論点が出つつある。次回から論点を絞った議論ができるのではないかと。
- ・議論のための論点は、協議会自らが出していく方がよい。
- ・住民からは長年の行政不信による発言が出ることも致し方がなく、互いの人間的な信頼感の醸成が協議会の運営にとって大事である。
- ・区市は国都と住人の間に位置して重要であるため、必ず、代理出席を含めて出席すべきある。

今後の有識者委員会の方針について

- ・本年末に第2次提言をまとめる。そのため10月~11月に集中審議を行う。
- ・広域の世論も把握しておくことが必要。そのためアンケートを実施すべき。
- ・協議会での議論に必要なかつ十分な資料が出されているかの視点に立つべき。
- ・総合政策として交通と環境を同時解決するシナリオ、また長期的な視点での複数のシナリオの中から外環の必要性について国、都の考え方を提示すべき。
- ・外環の費用対効果を検討すべき。
- ・政治判断とは別の性格である専門家としての論点整理の視点に立つべき。
- ・今回は、行政からも、委員からも意見を出す。

第10回東京環状道路有識者委員会について

日時：平成14年10月8日(火) 9:30～11:30

会場：ダイヤモンドホテル「エメラルド」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授
(委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授
越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
中条 潮 慶應義塾大学商学部教授

主な意見：

これまでに寄せられた意見について

- ・寄せられた意見は集約することが必要。
- ・これからは寄せられた意見に対して答えていくことが必要。

最近のPI実施状況について

協議会における議論の進め方

- ・行政の考える方向性を旗幟鮮明にしていかないと、内容の議論が深まらないのではないかと。
- ・効率的に進めるために、グループディスカッション形式を取り入れるなどの工夫が必要。

行政の資料について

- ・資料をニュートラルに作るあまり、文脈が見えずわかりにくい。また、強弱をつけた重点的説明が望まれる。
- ・予測方法、引用文献、データの出典などをきちんと説明し、バックデータや報告書等も見られるよう配慮すべき。
- ・計画内容（高架案、地下化インター有り案、地下化インター無し案）について、より具体的で詳細な図面を作成して、資料として示すべき。また、それぞれの計画の詳細な比較（市区町村別で、移転必要・移転不要の家屋数と面積、概算事業費など）も提示すべき。
- ・行政として議論してきたものについては、いろいろなところに資料として出せるものは出していくべき。
- ・ベネフィットとコストのうち、コスト面の情報、特に外環周辺がどうなるかの情報提供が重要。

アンケート

- ・PIの浸透度について把握するべき。相談所への来場者など関心の高い人へのアンケートも行ってはどうか。
- ・アンケートはその分析や判断のやり方が大事。

今後の有識者委員会の方針について

- ・委員会発足から約一年となることから、12月迄に提言をまとめていく
- ・これまでに実施したPIについて、何が有効であったか評価が必要。
- ・構想段階での必要性の議論は如何にあるべきかを念頭に置いたPIが必要。その観点からPIを評価し、提言とすることが必要。
- ・外環のPIも一歩踏み出すべき時期である。そのため、行政としての考えを示し、対話が始まるようにすべき。